

インタビュー 領空侵犯

「東京の首都高速道路都心環状線を撤去すべきだ」と主張されていますね。

「世界の主要都市をみても、東京のように都心の街をまるで覆う形の高速道路が走っている都市はほとんどありません。景観の面からも環境問題からも、高速都心環状線はいらないと考えています」

「僕は3歳のときから東京で育ちましたが、小さいころはもちろん首都高などはありませんでした。1964年の東京五輪を前に整備が始まったのが首都高です。当時、東京・港区で新婚生活を送って

首都高速を撤去せよ

プロデューサー
藤岡 和賀夫氏



1927年兵庫県生まれ。東大卒業後、電通入社。「ディスカバージャパン」「いっしょ旅立ち」など日本広生史を画したプロデューサー。首都高都心環状線の撤去を提言した「私には夢がある」など著書多数。

海外に先例、景気浮揚も

「撤去すれば交通がマヒするとの主張もあります。首都高を走る車の多くが通過するだけという統計もあります。そうした車が東京外環自動車道や一般道などを通

し、撤去の時期はもっと早くてもいいのではないかと思います」

るようになれば、大きな交通混乱が起きる心配はいらないはずだ」

メンテナン스는膨大な費用がかかり金食い虫ともいわれています。首都高都心環状線の撤去で、都心の街にきれいな空と環境が戻り、かつてあった水路や水辺がよみがえれば、人々に大きな驚きと開放感を与えるはずだ。それが景気浮揚にもプラスに働くと

「それからおよそ半世紀、もし2016年に東京で再び五輪が開催されれば、それを花道に首都高環状線を撤去するのがいいと考えています。五輪候補地の選考で落選

した先進的な事例に学ばば、首都高の撤去は決して荒唐無稽(こうとうむけい)ではありません」

「100年に一度の経済危機といわれるほど景気が低迷し、世の中が何となく暗い時代だからこそ、みんなが『変わった』と実感できるような大胆な発想が求められています」

「現実には首都高はかなりほろぼろに傷んだ感じで、その

聞き手から

この提案は実現性に乏しいと思う人も多いかもしれない。しかし、藤岡氏が語るように、歴史の転機では発想の大転換が求められるのも事実だ。ソウルなど世界の先例があるし、東京・日本橋地区での撤去構想を打ち出したグループもある。プラス面やマイナス面、実現可能性などを広く議論する意味はあるだろう。(編集委員 榎木誠)

「僕が1970年に『モーレツからビューティフルへ』というコピーをつくってから約40年の歳月が過ぎました。でもその間、日本の社会はあまりビューティフルになってはいないような気がします。首都高撤去のプロシエクトがビューティフルな首都東京の街づくりの象徴になることを夢見ています」

日経ネットPLUS (http://netplus.rikkai.co.jp) でもこのテーマを議論します。

もうひと言

東京のすばらしさを外国の人になかなか言えないのが残念だ。